

## 令和8年度 苫小牧市DX推進リーダー育成研修業務委託 仕様書

### 1 業務名称

令和8年度 苫小牧市DX推進リーダー育成研修業務委託

### 2 業務の目的

本市が求めるDX人材像は、自分のまわりや他部署の職員に、チームで余力・考える時間・変革への気力を生み出し、全庁的なDXを牽引する人材としている。

このことを踏まえ、本業務で育成を目指す人材には、市民サービスの向上、業務改革、働き方改革を、各部署の各職員と一緒に、全庁的にけん引する役割を期待する。また、こうした活動を通じて、DXマインドを庁内に広め、変化や変革が「当たり前」となる「しなやかな組織文化」を醸成することを目的とする。

令和8年度は令和7年度事業にて有効であったBPR意識・企画検討の題材の良さを活かしつつ、利用可能なデジタルツール活用も加えながら、現場実践力のあるDX推進リーダーの育成を目指す。あわせて、関係者(市民・事業者・職員等)の視点に立った課題発掘から解決策の構想・試作・検証の一連のプロセスを体験的に学ぶことで、受講者の変革マインドと実行力を醸成する。

### 3 業務内容

#### (1) 研修カリキュラムの作成

DX人材に必要なDX基礎、BPRに関わるマインドの醸成およびスキルの習得を図る研修カリキュラムを設計すること。

また、生成AI、オンライン申請システム、AI-OCR、RPA等のデジタルツールについて研修設計に明示的に組み込むこと。

さらに、受講者が現場課題を自身のみならず、関係者の視点でも捉え、解決策の構想から試作・検証までを一貫して体験するような実践的なプログラムを含むこと。

#### (2) 集合研修・伴走支援の実施

実施形態は対面を基本とすること。ただし、補助的な研修・グループ成果物作成等の伴走支援はリモートでも可。

対面研修は参加型(ワークショップ等)を主体とし、グループワークで全員が発言し、チームビルディングとメンター育成に資する設計とすること。また、受講者が関係者の視点に立った課題の掘り下げを行い、全体最適を意識した解決策をチームで検討するプロセスを含むこと。

研修時間外の業務を圧迫しないよう、研修時間内でグループ成果物が概ね完成するような設計とすること。

#### (3) デジタルツールの接続・リスク管理

BPRのグループ成果物作成にあたっては、実際に市で扱うことのできるデジタルツールによる業務変革を誘導すること。

デジタルツールについては、利用環境・制約などの前提条件を確認し、リスク周知(情報管理・留意事項)も研修内に含めること。

#### (4) チャット等による情報提供・質疑対応

市が用意するチャット上で、研修受講者及び事務局と教材・関連情報の事前・事後配布、研修内容に関するQ&A、グループ成果物の作成等の伴走支援を行うこと。

#### (5) ゴール設計・現状把握

受講者の到着点(スキル・マインド)と現状把握手法(測定タイミングを含む)を設計し、市と協議して決定すること。

(6) 持続的な人材育成提案

令和9年度以降の展開と、受講完了者のスキル・マインドの維持・向上も含む中長期のDX人材育成案を提案すること。

4 対象者・規模

DX推進リーダー候補者20名（庁内公募・所属長推薦等）を想定すること。

5 成果品（納品物）の納入

(1) 研修実施報告書

各研修の終了後、実施報告書を作成し、研修に使用したテキスト及び資料一式を付して提出すること。

(2) グループワーク成果物

本研修を通じて作成された業務改善フローや業務改善企画書、デジタルツール活用の試作案及び、これらの検討の変遷を整理・記録し、提出すること。

(3) グループワーク振り返り

グループ毎に振り返りを1回以上実施し、成果および改善点等を明確化しレポートとして提出すること。

(4) 効果測定レポート

受講者アンケート等で効果測定し、結果と示唆、次年度改善案を報告すること。

(5) 中長期人材育成提案

研修成果や受講完了者を令和9年度以降のDX人材育成につなげる中長期人材育成提案を提示すること。

4 履行期間

契約締結日から令和9年3月31日まで

5 委託料上限額

金2,420,000円（消費税及び地方消費税相当額を含む）

※研修を実施する上で、必要な全ての経費を盛り込む。

6 留意事項

業務の遂行にあたり、本仕様書に定めていない事項が生じた場合及び疑義が生じた場合は、その都度協議し定めるものとする。